

NEWS LETTER



岩手大学
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部
岩手県立大学宮古短期大学部
岩手医科大学
富士大学
盛岡大学・盛岡大学短期大学部
放送大学岩手学習センター
一関工業高等専門学校

～ 岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2020.Sept

No. 24

Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
 - 地域リーダー育成プログラム履修ガイド
 - 地場産業・企業論／企業研究
 - ボランティアとリーダーシップ
 - グローカル基礎研修
 - 駅前講義
 - FD・SD研修会

ご挨拶

今年4月より放送大学岩手学習センター所長を務めております西崎滋と申します。いわて高等教育コンソーシアムとは、3月末まで所属していた岩手大学の図書館長の任に当たっていた時に、附属図書館長及び実務担当者会議のメンバーとして、相互利用の促進のための環境整備と図書館に関する情報交換を通じて関わってまいりました。今後はコンソーシアム全般の運営に関わるということで身の引き締まる思いがいたします。構成機関の一員としてよろしく願います。



放送大学岩手学習センター
所長 西崎 滋

放送大学は通信制の大学で、各専門分野における学術研究を通じて新しい教養の理念を追求し、放送を活用して大学教育を行い、併せて広く生涯学習の要望に応えることを目的としています。10歳代から70歳代超の幅広い年代の学生が在籍し、学生は、学位の取得、資格・免許の取得によるキャリアアップ、各自の興味・関心に基づく自己啓発や学問の探究を目指して、マイペースで学修しています。授業形態としては、テキストを使ったBS放送やインターネットによる放送授業、授業の視聴から問題解答・レポートの提出までをインターネットによって行うオンライン授業、学習センターで行う面接授業の3つがあります。昨年度末からの新型コロナウイルス禍においても放送授業とオンライン授業は通常通りの授業を実施しました。各学習センターの企画した面接授業の代替授業や放送授業の単位認定試験をWebを利用して実施するなどの新たな対応もしております。

新型コロナウイルス禍の現在、人の命か経済活動かといった二律背反的な議論が日々報道されていますが、経済活動が人の命を守り安心・安全な生活を保障するのが本来の姿であり、そのようになっていない一因は効率一辺倒で自転車操業的な社会の在り方にあるのではないかと考えています。いわて高等教育コンソーシアムは、地域の中核を担う人材育成を柱に、教育環境の基盤整備、教育力の向上、知の拠点形成、大学進学率の向上、地域の活性化に関わる諸事業を戦略的の大学連携事業として実施してきました。コンソーシアムで育った人材が、地域の人々と手を携えて地域の持続的な発展に力を発揮出来るように、余裕を持ちつつ地に足をつけて歩む社会へと転換していくことを期待したいと思います。

学識と実行力を備えて 「地域を担う中核的人材」になろう!

平成27年度から開始されている、いわて高等教育コンソーシアム「地域リーダー育成プログラム」では、平泉や賢治らに育まれた共生の思想(人と自然との共生、万物の共生)を尊び、地域全体を思いやるリーダーとして、コーディネート力を備え、多様な領域・局面で地域の中核を担う人材の育成を目指しております。

当プログラムは、いわてコンソ連携校(単位互換協定校)の学生を対象にしたもので、地域課題や復興に関わるコア科目から4科目8単位を修めれば「コア科目履修証」を発行し、さらに地域課題解決プロジェクトを遂行して審査に合格した学生には連携校の学長及び校長の連名による「地域を担う中核的人材認定証」を授与します。

これまでに4名の学生が「地域を担う中核的人材認定者」として認められています。

コア科目とは、以下5科目(各2単位)のことで、「コア科目履修証」の認定にはこの中から必修科目2科目(4単位)と選択科目から2科目(4単位)の4科目8単位の修得が必要です。

《必修科目》 ●いわて学[前期・後期開講] ●ボランティアとリーダーシップ

《選択科目》 ●地場産業・企業論/企業研究 ●危機管理と復興 ●グローバル基礎研修

なお、選択科目2科目の内1科目(2単位)は下表の地域科目で読み替えることができます。その結果、必修科目を2科目(4単位)、選択科目を1科目(2単位)、地域科目を1科目(2単位)修得した場合も「コア科目履修証」を発行することができます。



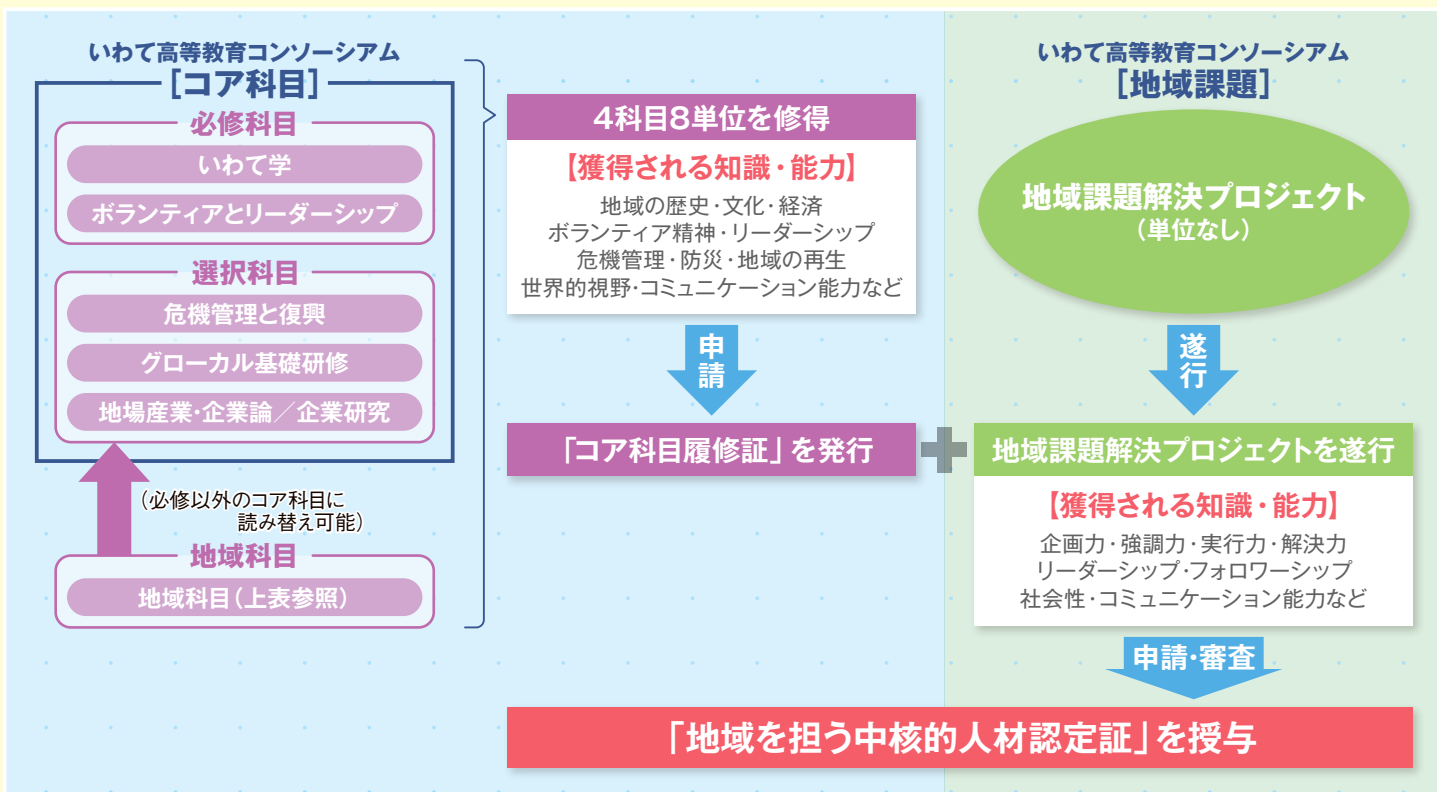
地域リーダー育成プログラム 履修ガイド

地 域 科 目	
岩手大学：教養教育 1年次以上/各2単位	岩手県立大学：基盤教育 1年次以上/各2単位
地域課題演習 A	地域社会と健康
地域課題演習 B	異文化間接触と多文化共生
地域課題演習 C	人間と職業
地域課題演習 D	地域と情報
地域課題演習 H	地域コミュニティとまちづくり
—	いわて創造学習I(※単位互換不可)

地域課題解決プロジェクトは、複数の連携校にまたがり複数名のグループ活動として実施し、担当教員の指導を受けることが条件となっています。

地域の課題解決策を学生たちが主体的に考え実行し、企画力・協調力・実行力・解決力・リーダーシップ・フォロワーシップ・社会性・コミュニケーション能力等の獲得を目的としています。

このプログラムの詳細を記載したリーフレットは新入生全員に配布しています。各校の教務窓口にも用意してありますので、お気軽にお尋ねください。



コア科目(選択科目) 地場産業・企業論／企業研究

「地場産業・企業論」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手大学及び岩手県立大学が主務校となり、「地域リーダー育成プログラム」のコア科目として、今回が5回目の開講となりました。

本科目は、シリコンバレーなど世界各地の有名企業で数多く実践されている最先端の問題解決手法であるデザインシンキングを岩手県内で実際に体験するものです。新たなアイデアやイノベーションを生み出す方法論としてのデザインシンキング(デザイン思考)により、人への共感を活用し、企業や社会が抱える問題を再検討し、新しいアイデアや可能性を探っていく問題解決プロセスについて学びました。昨今のコロナ禍による様々な制約のなか、より学修効果の高い授業を模索しながら、オンラインとオフラインを組み合わせた授業形式で実施しました。

学生たちは、参加型・体験型の学びを通じ、学生自身が企業の求めている解決策を導き出せる「取り組み」や「場」になれるよう、積極的な姿勢で臨んでいました。



課題に取り組む様子



講義の様子

コア科目(必修科目) ボランティアとリーダーシップ



グループワークの様子(歩健学研究室 西村先生)



ボランティア実習での集合写真(高田松原)

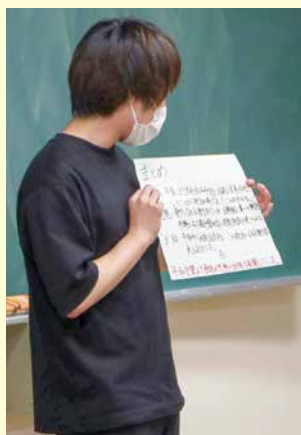
地域リーダー育成プログラム必修科目の「ボランティアとリーダーシップ」はボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方について学び、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的とした特別講義です。今年度は17名の学生が履修しました。(岩手大学16名、盛岡大学1名)

今年度の講義は、新型コロナウイルス感染症対策として毎年行っていた合宿を中止し、感染予防に十分配慮した上で、9月8日(火)～9月11日(金)に岩手大学での講義と陸前高田市へ赴きボランティア実習を実施しました。

初日は四天王寺大学吉田祐一郎先生による遠隔講義「ボランティア活動」、岩手大学後藤尚人先生による講義「リーダーシップ」を行い、2日目の歩健学研究室西村千尋先生による講義「コミュニケーショントレーニング」では緊張を解きほぐすコミュニケーションの取り方を学びました。3日目のボランティア実習では、「高田松原を守る会」の活動に参加し高田松原での除草作業の体験と活動目的についてのお話を聞かせていただきました。

この講義を通して参加学生から「ボランティア精神とは何かを学んだ時に、感銘を受けた。」「実際に現地で活動することで得られるものが多くあることを学びました。」という感想が寄せられるなど、学生達にとって有意義な講義となりました。

コア科目(選択科目) グローカル基礎研修



発表の様子

本講義は平泉を広い視野から捉えることを目的としており、本年度は8月16日(日)から19日(水)に実施しました。受講者は岩手大学生19名でした。最初の2日間は基礎知識を得るため、「歴史学」「考古学」「民俗学」の観点から平泉について学びました。3日目は4グループに分かれ、平泉の特色について、これまでの学習成果をふまえて議論を行ってプレゼンテーション資料を作成し、発表しました。

最終日は伊藤博幸平泉文化研究センター客員教授の案内のもと、中尊寺・毛越寺・柳の御所遺跡などを巡る現地見学を行いました。新型コロナ感染予防のために、恒例の見学先各所でのグループワーク成果の発表ができず、残念でしたが、受講者全員が講義・グループワーク・現地見学及びプレゼンテーションに熱心に取り組み、とても充実した内容の講義となりました。



毛越寺の見学風景

大学での学びをちょっとのぞいてみませんか? 単位互換高大連携～駅前講義～

7月27日(月)、岩手県立大学アイーナキャンパス(盛岡駅西通)において、県内高校生の進学意識の向上を目的として「駅前講義」を開催しました。

今年度は映像同時配信など新型コロナウイルス感染症対策を講じての開催となりました。講義では、岩手県立大学齋藤俊明特任教授から「100年後の未来から今を考える」と題して、未来を意識しながら、今、大学でどのような力を身に付けるべきか等について、人口減少やAI社会の到来を交えてお話があ

りました。県内の高校生・保護者等49名が参加し、「自分の進路や大学について考えることができた」「この講義で、大学を目指す意義を1つ見つけることができた」等の感想が寄せられました。

また、講義の他に、大学進学のパワーポイントや県内各大学の紹介展示、大学生による相談対応も実施しました。参加者は各大学の案内や学生生活の展示を熱心に見学していました。



齋藤特任教授による講義



展示会場の様子



大学生による相談対応

FD・SD研修会

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会は、当委員会主催のFD・SDの開催、連携大学で実施するFD・SD研修会の相互参加の推進等を目的に活動しております。今回は、令和2年度上半期に開催いたしましたFD・SD研修会についてご報告いたします。

去る8月28日(金)に、『「教学マネジメント指針」を読み解く』と題しまして、中央教育審議会の教学マネジメント特別委員会委員も務められました大阪大学の佐藤浩章氏に大阪から遠隔で参画していただき、コンソーシアム参加各校の参加者とオンラインでつないで、FD・SD研修会を開催しました。

「教学マネジメント指針」は、中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会における議論を基に、教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示すことにより、教学マネジメントの確立に向けた各大学の真剣な検討と取組を促す契機とすることを目的として作成されたものです。全ての大学に対応が求められる今最も注目されているキー

ワードの一つであり、多くの関係者の方にご参加いただきました。本指針導入の経緯、質保証の在り方等、実際に指針の作成に携わった佐藤先生の貴重なご講演から始まり、参加者が自大学の質保証のサイクルを振り返るワークや本指針に関する質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。

FD・SD連携推進委員会では、昨今の大学を取り巻く環境の変化等に対応できるよう、今後も大学で働く教職員の皆様に有益な研修会等を企画してまいりますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。



FD・SD研修会ポスター

お知らせ

例年開催しております「いわて高等教育コンソーシアム高大連携ウィンターセッション全大会」及び「いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム」は、新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、参加者の皆様と関係者様の安心安全を最優先とし、令和2年度は開催中止を決定いたしました。

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局 (岩手大学法人運営部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

[E-mail] ihatov5@iwate-u.ac.jp [URL] <http://www.ihatov-u.jp/>